



セイヨウタンポポは、どこからきたの

外国からやってきた

セイヨウタンポポは、明治時代の終わりごろ、日本にわたってきたといわれています。もとは、ヨーロッパにあったものが、アメリカにわたり、さらに日本に広がったようです。セイヨウタンポポは、フランスではサラダ用に作られた品種があり、イギリスあたりでも、野菜のようにあつかわれて、ふつうに食べられています。

最初は、野菜として種をまいた

日本に入った最初は、アメリカ人が野菜として、札幌で種をまいたものといわれています。関東地方に広がっているセイヨウタンポポは、戦後、アメリカ軍がいろいろな品物を持ちこんだとき、くっついて入ってきたものといわれています。牧草地や、町中にたくましく咲いているのは、たいてい、セイヨウタンポポです。

夏、かれるのは、日本のタンポポ

昔からある日本のタンポポは、種から芽が出て花が咲くまでに、何年もかかります。春に花が咲くと、夏は、葉がかれて根だけになり、秋にまた葉を出したものが、地面にはりついたかっこうで冬をこします。飛んでいって地面に落ちた種も、気温が20℃以下にならないと、芽が出ないのです。

セイヨウタンポポは、1年中かれることなく花が咲き、飛んでいった種も、いつでも芽を出し、すぐ成長して、1年たたないうちに、花をつけます。じょうぶで、どんどんふえるセイヨウタンポポにおされて、日本のタンポポは、町の近くでは、あまり見られなくなっています。（監修・矢野 亮）

